

名古屋帝国大学初代総長の名を冠した^{しぶさわ}澁澤賞

名大関係者の名前を冠した表彰といえば、野依賞（高砂香料国際賞）、赤崎賞、岡崎令治・恒子賞（岡崎アワード）などがありますが、創設から66年もの歴史を誇るのが、初代総長である澁澤元治を記念した澁澤賞です。

1876（明治9）年、現在の埼玉県深谷市に生まれた澁澤元治は、東京帝国大学工科大学（現在の東京大学工学部）で電気工学を学んだ後、4年近くの欧米留学を経て、1906年に電気行政を掌る^{ていしん}通信省に入省しました。

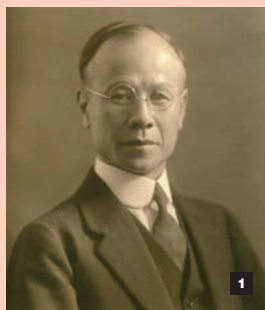
澁澤は技術官僚として、水力発電の発展や鉄道の電化など、揺籃期にあった日本の大規模電力事業の発展に尽力するとともに、電気事業法や電気工作物規程の制定、電気主任技術者制度の改革、高圧送電線電圧の決定や周波数の統一など、電気事業に関わる様々な制度や規格の確立に大きな役割を果たしました。1920（大正9）年には、当時の電気事業における技術上の総元締めとも言われた

通信省電気局技術課長に就任しています。日本の近代的な電気行政の父とも言えるのでしょうか。

その後、東京帝国大学工学部教授、同工学部長を経て、1939（昭和14）年から約7年にわたり名古屋帝国大学総長を務めました。そして1955年には、電気関係者として初めての文化功労者に選ばれました。

これを記念して、有志が澁澤元治博士文化功労賞受賞記念事業委員会を組織して寄附が募られ、これを基金として、1956年から社団法人日本電気協会による澁澤賞の表彰が始まりました。以来毎年、電気の保安、信頼度の向上に関する諸分野で顕著な功績をあげた方、長年にわたり地道に業績をあげた方を広く顕彰してきました。

澁澤賞は、11月3日に受賞者が発表され、11月下旬に贈呈式が行われるのが通例です。2022（令和4）年も、44件111名の方々が第67回澁澤賞を受賞しています。



- 1 澁澤元治（1876-1975）。1911年工学博士、1923年電気学会（日本）会長、1929年アメリカ電気学会名誉会員、1938年帝国学士院会員（電気工学で初）。
- 2 現在も続く国際大電力システム会議（CIGRE）の、パリで開催された第1回会議の記念写真（1921年）。澁澤は、日本代表として出席した（写真前列左端）。
- 3 第8回澁澤賞贈呈式で挨拶する澁澤（当時87歳）。生前の澁澤は、贈呈式には必ず出席していたという。
- 4 澁澤賞の賞状（レプリカ）。写真の上の「和」の字は澁澤の揮毫で、座右の銘「以和為貴」（和を以て貴しと為す）から取られたもの。
- 5 第50回澁澤賞贈呈式（2005年、大学文書資料室撮影）。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集… など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp